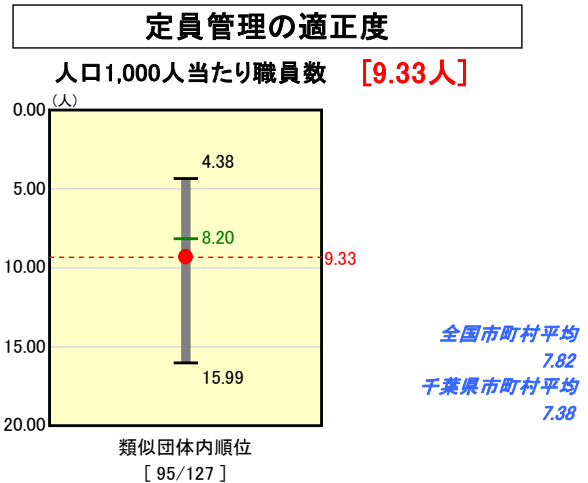
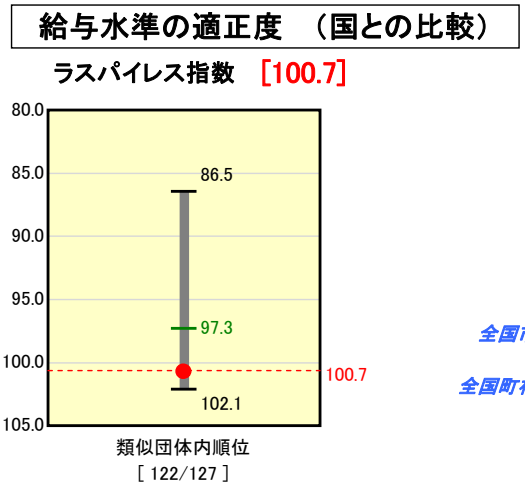
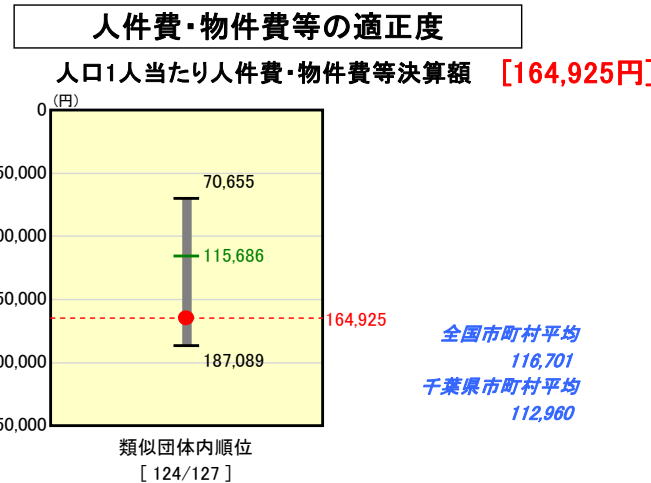
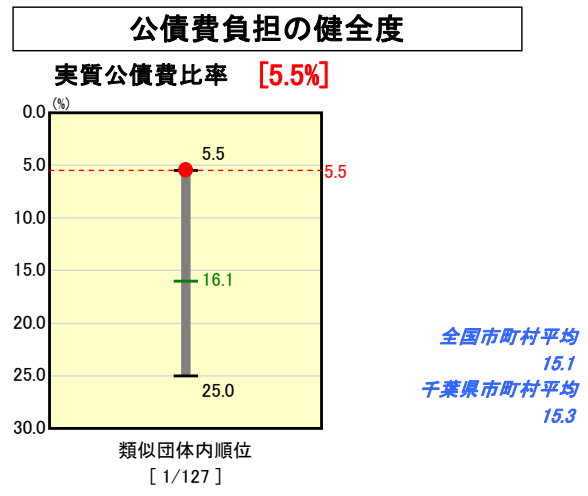
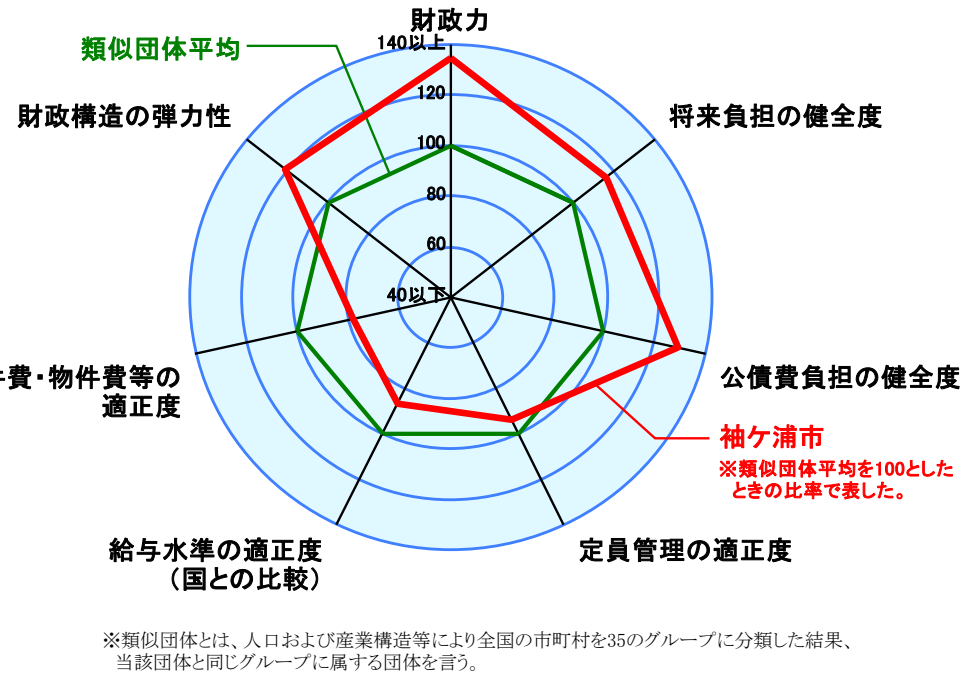
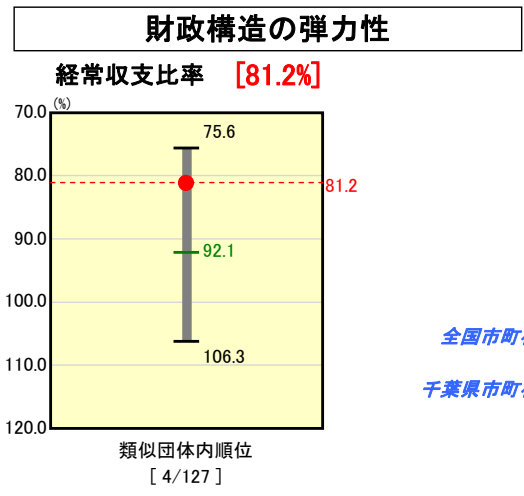
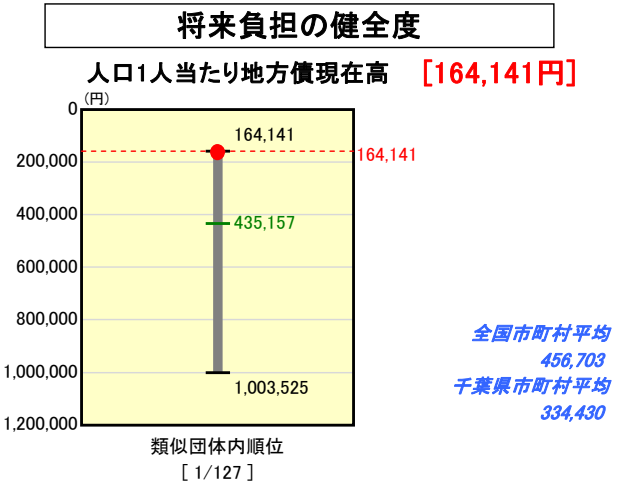
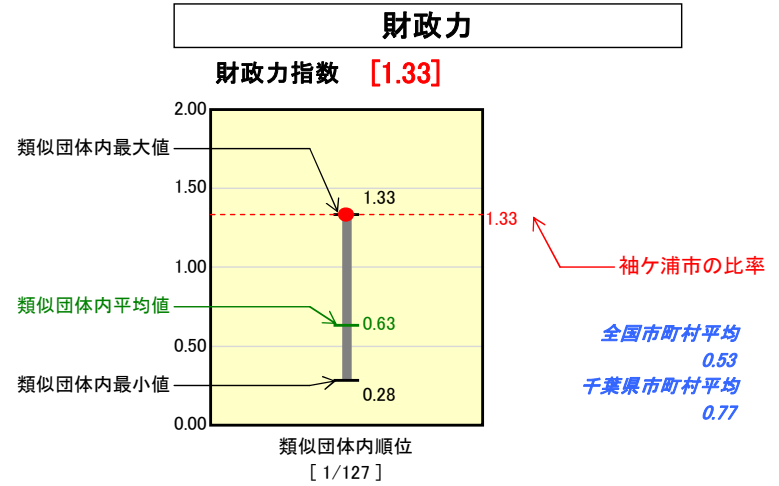


# 市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

## 千葉県 袖ヶ浦市

|      |            |                 |
|------|------------|-----------------|
| 人口   | 60,325人    | (H19.3.31現在)    |
| 面積   | 94.92      | km <sup>2</sup> |
| 歳入総額 | 20,742,647 | 千円              |
| 歳出総額 | 20,243,525 | 千円              |
| 実質収支 | 492,572    | 千円              |



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

**財政力指数**  
臨海部に大企業の工場群があり好調な企業業績に支えられ他の類似団体を上回る税収があるため。今後も市民サービスの向上に努めながら行財政運営の効率化を図り、財政の健全化を堅持する。

**経常収支比率**  
他の類似団体より低い数値であるが、昨年より3.2ポイント悪化している。これは、扶助費及び公債費の増加によるもので、特に公債費については、平成14年度、平成15年度に借入した複数の施設等の元金償還が始まったため、年々増加している扶助費もあり楽観はできない状況である。今後も財政の弾力化を維持するため経常経費の削減に努める。

**ラスパイレス指数**  
全国平均を上回る原因としては、昇給停止措置が国より高い58歳となっていたことや以前の初任給基準が国より2号高かったことがあげられる。平成17年度より初任給基準を1号引き下げ、更に平成18年度からの給与構造改革により、昇給制度が国と同様になったため、今後は低下が見込める。

**実質公債費比率、人口1人当たり地方債残高**  
後年度負担の適正化、健全財政の維持を考慮して借入してきた結果、他の類似団体より低い数値となっている。今後も起債に大きく頼ることなく過度な後年度負担とならないよう配慮しつつ起債の活用を図る。

**人口1,000人当たり職員数**  
昭和40年代の臨海部の石油コンビナートの形成や昭和50年代の人口急増期の行政需要に対応するため、職員を大量採用したことにより、類似団体平均を上回っている。平成17年度に組織のフラット化を導入するとともに、平成18年度から指定管理者制度を採用し、今後も指定管理者制度導入の拡大や保育所の民間委託への移行検討・臨時職員の活用などにより、職員の削減に努め、現「定員適正化計画」の計画期間の退職見込数79名に対し、採用予定数を49名に抑制し、平成22年度までに30名(4.7%)の職員を削減する。

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額**  
人件費では、ラスパイレス指数の高いことや保育所、市民会館などの施設運営を直営で行っているためである。物件費等では、ごみの全量搬出や学校警備員、特別教員の配置等独自の施策展開、また、図書館、健康施設、公民館等公共施設が多く、これら施設の運営・維持・管理等の外部委託の推進が物件費等の上昇を招いている。今年度から導入した指定管理者制度を有効に活用しコストの低減に努めると共に、委託業務等の総点検を行い人件費・物件費抑制に努める。